

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第1区分

【発行日】平成19年8月23日(2007.8.23)

【公開番号】特開2006-30037(P2006-30037A)

【公開日】平成18年2月2日(2006.2.2)

【年通号数】公開・登録公報2006-005

【出願番号】特願2004-210868(P2004-210868)

【国際特許分類】

G 0 1 N 33/50 (2006.01)

A 6 1 K 31/405 (2006.01)

A 6 1 K 31/557 (2006.01)

A 6 1 K 31/5575 (2006.01)

A 6 1 P 3/04 (2006.01)

A 6 1 P 3/06 (2006.01)

A 6 1 P 3/10 (2006.01)

A 6 1 P 9/10 (2006.01)

A 6 1 P 29/00 (2006.01)

A 6 1 P 43/00 (2006.01)

C 1 2 Q 1/02 (2006.01)

C 1 2 Q 1/66 (2006.01)

G 0 1 N 21/78 (2006.01)

G 0 1 N 33/15 (2006.01)

G 0 1 N 33/543 (2006.01)

G 0 1 N 33/566 (2006.01)

【F I】

G 0 1 N 33/50 Z N A Z

A 6 1 K 31/405

A 6 1 K 31/557

A 6 1 K 31/5575

A 6 1 P 3/04

A 6 1 P 3/06

A 6 1 P 3/10

A 6 1 P 9/10 1 0 1

A 6 1 P 29/00

A 6 1 P 43/00 1 0 7

A 6 1 P 43/00 1 1 1

C 1 2 Q 1/02

C 1 2 Q 1/66

G 0 1 N 21/78 C

G 0 1 N 33/15 Z

G 0 1 N 33/543 5 7 5

G 0 1 N 33/566

【手続補正書】

【提出日】平成19年6月29日(2007.6.29)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

核内受容体を調節する化合物を同定する方法であって、該方法は：

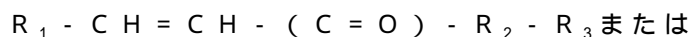
A) 候補化合物を提供する工程； および

B) 該候補化合物が、該核内受容体中のシステインと共有結合するかどうかを判定する工程であって、共有結合すると判定された候補化合物を、核内受容体を調節する化合物であると同定する工程を包含する方法。

【請求項 2】

請求項 1 に記載される方法によって、特定された化合物を含む核内受容体の調節のための組成物であって、該化合物は、以下の式：

(化 2)

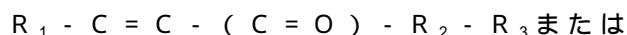


という構造を有し、ここで、 R_1 は、最短距離を結ぶ炭素数の最大値が 1～13 個の、置換されていてもよい飽和または不飽和の炭化水素基であり、 R_2 は、置換されていてもよい飽和または不飽和の炭化水素基であり、 R_3 は、水素または置換されていてもよい、カルボニル基、水酸基、アミド基およびチオール基からなる群より選択される置換基を含む一価の置換基であり、ここで R_2 と R_3 とは、含まれる炭素について、最短距離を結ぶ炭素数の最大値が 4～14 個である組成物。

【請求項 3】

請求項 1 に記載される方法によって、特定された化合物を含む、核内受容体に起因する疾患、障害または状態の処置、予防または予後のための組成物であって、該化合物は、以下の式：

(化 3)



という構造を有し、ここで、 R_1 は、最短距離を結ぶ炭素数の最大値が 1～13 個の、置換されていてもよい飽和または不飽和の炭化水素基であり、 R_2 は、置換されていてもよい飽和または不飽和の炭化水素基であり、 R_3 は、水素または置換されていてもよい、カルボニル基、水酸基、アミド基およびチオール基からなる群より選択される置換基を含む一価の置換基であり、ここで R_2 と R_3 とは、含まれる炭素について、最短距離を結ぶ炭素数の最大値が 4～14 個である組成物。

【請求項 4】

1) 標的生体分子と、リガンドとを混合して混合物を生成する工程；

2) 蛍光標識マレイミドを該混合物に加える工程；

3) 該混合物において、該標的生体分子と該蛍光標識マレイミドとの結合を検出する工程

を包含する、該標的生体分子に対するリガンドの結合能を定量する方法。

【請求項 5】

核内受容体を調節する化合物を同定するシステムであって、該システムは：

A) 候補化合物が、該核内受容体中のシステインと共有結合するかどうかを判定する手段； および

B) 共有結合すると判定された候補化合物を、核内受容体を調節する化合物であると算出する手段を備えるシステム。

【請求項 6】

核内受容体を調節する化合物を同定するために用いられる、化合物と、該核内受容体との共有結合を測定するためのキットであって、

- A) 該核内受容体と不可逆的に共有結合することが分かっているリガンド； および
- B) 共有結合しないリガンドの結合を測定するための手順を記載する指示書

を備えるキット。

【請求項 7】

核内受容体を調節する化合物を同定する方法をコンピュータに実行させるプログラムであって、該方法は：

- A) 候補化合物の立体構造データを提供する工程； および

B) 該候補化合物が、該核内受容体中のシステインと共有結合するかどうかを判定する工程であって、共有結合すると判定された候補化合物を、核内受容体を調節する化合物であると同定する工程
を包含するプログラム。

【請求項 8】

核内受容体を調節する化合物を同定する方法をコンピュータに実行させるプログラムを格納する記録媒体であって、該方法は：

- A) 候補化合物の立体構造データを提供する工程； および

B) 該候補化合物が、該核内受容体中のシステインと共有結合するかどうかを判定する工程であって、共有結合すると判定された候補化合物を、核内受容体を調節する化合物であると同定する工程
を包含する記録媒体。

【請求項 9】

候補化合物が、核内受容体のアゴニストであるかまたはアンタゴニストであるかどうかを判定する方法であって、該方法は：

- A) 候補化合物を提供する工程； および

B) 該候補化合物が、該核内受容体中のシステインと共有結合するかどうかを判定し、共有結合すると判定された候補化合物を選択する工程；

C) 転写因子認識配列と作動可能に連結されるレポーターをコードする核酸配列を含む核酸構築物と、該選択された核内受容体とを含む系において、該候補化合物の活性を判定する工程であって、該レポーターの発現が増強される場合、該候補化合物は該核内受容体のアゴニストと判定し、該レポーターの発現が減少する場合、該候補化合物は該核内受容体のアンタゴニストと判定する工程
を包含する方法。